II　研究テーマ「自立に向かう子どもたち」

研　究　部

1　研究テーマについて

本校では，今年度より研究テーマを「自立に向かう子どもたち」とし，その求める子ども像を「発達段階に応じて，他との関わりの中で，自ら考え，判断し，行動できる子ども」とした。このような場を設定することにより，子ども達には，主体的に考える態度や課題解決能力が身につくと考えた。さらに，その力を集団のために役立てることにより，集団から認められ，成就感や達成感を味わい，子ども達は，自分に自身をもち，自分らしさを追究していくようになると考えた。

研究テーマを「自立に向かう子どもたち」と設定したが，自立とは，かなり広い概念を含むし，それに向かう道筋も幾通りも考えられる。その中で本校では，次の４つの理由から「自分で決める場を大切にして」とした。

(1)　自分で決めようとすれば，子どもは既有の知識や日常の経験などを総動員しなければならなくなるということ

(2)　より自分の課題として感じられ，納得のいく結果を出したいという気持ちから没頭的な活動になりやすいということ

(3)　結果に対しても成功・失敗の原因を自らふり返り，次の活動への意欲が湧きやすいということ

(4)　自分の判断・行動に対して責任感が感じられやすいということ

2　テーマ実現に向けての教育課程の見直し

次に，研究テーマ実現に向け，サブテーマの視点の下，どのように教育内容の見直しを行ったかを説明する。

まず第１に，教科・領域を重視することである。第２として，学校行事の見直し。第３に，総合的な学習の設置の３点である。第１の教科・領域については，サブテーマを「自分で決める場を大切にして」としたが，教科ごと，単元ごと，さらには学習展開の場面の違いにより，「自分で決める場」というのは，いろいろな形をとるものと思われる。しかし，いずれにしても，自分で決める場を設けることにより，子ども達の学習は，他律から自立へ，受動から能動へ，結果重視から過程重視へと変わってくるものと考える。（くわしくは，教科の各章を参照）

第２の学校行事の見直しについて説明する。各行事が一人ひとりの子どもに自立を促すための内容・運営になっているかどうかを点検した。その結果，内容・運営が大きく変わった例として，運動会と集団宿泊的行事について説明する。

運動会は，昨年度までは，１年生から４年生までの学年において，かけっこ，学年種目，表現，全校種目の綱引き，選抜種目のリレーを行っていた。５．６年生のみ選択種目としていた。それを今年度より，すべての学年の子ども達に「自己選択と決定の機会を与える」という考えの下，学年種目以外すべて選択種目とした。例えば，かけっこをかけっこＡ（徒走）と，かけっこＢ（障害物走）との選択とし，綱引きをリレー（希望者による）と綱引きとの選択にした。さらに各学年に選択種目を位置づけた。

次に集団宿泊的行事については，本校では昨年まで，集団宿泊的行事を４年生から実施していた。４年生で１つ，５年生で１つ，６年生で２つ行っていたが，子ども達の生活にもっとゆとりが必要

であることに気づき，１学年１宿泊とした。さらに，子ども達に自立を促すためには，自然体験や共同生活体験が重要であるという考えから，実施学年を１年下げて３年生から行うことにした。

また，今年度は，各行事のねらいを点検するとともに，総合的な学習のねらいとの関連を調べ，行事の内容の精選や充実を図り，総合的な学習への位置づけを行った。

３つめは，総合的な学習の設置について説明する。

めざす子ども像を「発達段階に応じて，他との関わりのなかで，自ら考え，判断し，表現できる子ども」としたが，その実現のためには，現在の教科・領域の枠に限定されない，実感や達成感の持てる体験や，考えたり，判断したり，行動の基礎となる体験が必要であると私たちは考えた。そのなかで，子ども一人ひとりの興味･関心に基づいた追究活動が展開される。自らの課題を設定し，自らの解決方法で，自らのペースで，失敗を恐れず，自らの結果を出し，自らの方法で表現する。この一連の学習を通して，一人ひとりの子どもが自身を持ち，自ら自分らしさを探究していく力を身につけるとともに，自分がどういう人間なのかということが見えてくるようになると思う。子ども達が，自ら考え，決定し，責任をもつ自己活動。これが本校の総合的な学習である。

以上の考えから，本年度は，「人間」「環境」「自分タイム」「コンピュータ活用」の４領域を設置した。それぞれのねらいをあげると，

◎人間領域

人と人の関わりを通して，自分自身を見つめ，人間として共によりよく生きようとする子どもを育てる

◎環境領域

自然とふれあったり，身の回りの環境を調べたりする活動を通して，自然のよさやそれを取り巻く問題点に気付き，環境保全に向けて進んで行動しようとする態度を育てる

◎自分タイム領域

自分の興味・関心をもとに学習課題を決定し，見通しをもって課題に取り組み，自分の力で生活を豊かにしようとする子どもを育てる

◎コンピュータ活用領域

・コンピュータなどの機器に主体的に関わり活用し，生活をより豊かにしていこうとする態度を養う ・コンピュータの基本操作技能を身につけることができる ・コンピュータの通信機能を生かした利用をし，情報収集や情報発信をすることができる

以上４領域のねらいについて説明したが，総合的な学習を進めるに当たって重視していることがある。それは，直接体験である。この五感を通しての丸毎体験は，子ども達に実感や無意識の世界にも実にたくさんのものを与えてくれる。それらは，子ども達の人格形成に深く影響を与え，個性をも目覚めさせてくれる。また，抽象的な思考を育てていく上でも土台となるものである。このように，直接体験は，子ども達が自立に向かっていくために大変重要なものを与えてくれる。しかし，それだけでは，「はい回る学習」になってしまう。体験を振り返り，この体験で得たものを焦点化し，一人ひとりの子どもの課題へと実らせるようにしている。

次に総合的な学習の授業時数について説明する。本校では，ゆとりの時間と火曜日の学級裁量の時間を活用して，週２時間×35週間をあて，年間の総時数を60時間程度としているが，低・中・高学年によって重点のおき方を変えている。

3　これからの方向性

最後に，次の４つの点から方向性を探っていきたいと考えている。まず，教育課程の見直しである。その柱として，総合的な学習の充実を考えている。今年度は，一人ひとりの子どもの個性を覚醒し，伸長していくという観点から総合的な学習を位置づけたが，これからも実践を基に，４領域の内容や４つに分けたことについても検討していく予定である。本校の総合的な学習は，教科・領域の枠外に位置づけているので，時数上問題はないが，子ども達にとって実質２時間，以前より増えている事は確かである。「自立」は「ゆとり」から生まれるということからも今後教科内容の厳選をしていく必要があると考えている。行事の見直しについては，研究テーマに照らし合わせて，各行事の内容を検討しているが，今後さらにねらいや内容の過不足を吟味し，さらに子ども達が自立に向かえるような行事にしていきたいと考えている。

次に評価について説明する。小学校の入学時から，自分らしさを探究するための生涯教育は始まっている。長い生涯教育を行っていくためには，「今，自分はどこにいて，どこへ進もうとしているのか」を知るための羅針盤ともいうべき自己評価能力が必要である。本校では，以前から「ふり返り」を行ってきているが，これからもより充実させていきたいと考えている。

次に，子ども・教師の意識改革について説明する。子どもに自立を促すためには，子どもと教師の意識改革が必要だ。学校は，仲間と協力し，自らの課題を解決し，自分らしさを探究していくところである。先生は，それを支援してくれる存在だという意識に改革していく必要がある。また，教師も自らの役割を自覚し，そのための力量を養っていかなければならないと考えている。

最後に，地域社会・保護者との連携について説明すると，一人ひとりの子どもが，自分らしさを探究していく場として，教科・領域の枠外に総合的な学習を位置づけた。しかし，学校だけでは限界がある。子ども達が学校で学んだことを活用したり，また学校ではできない体験を積む場を，広く地域・諸機関・諸施設に求めていかなければならないと考えている。本校では，保護者を対象に人材ボランティアや体験施設の提供を呼びかけ，一人ひとりの子どもの個性が伸びて行くような環境造りに取り組んでいる。

以上の点を基に検討を加え，より充実した教育内容となるように今後も努力していきたいと考えている。

4　本校のめざす総合的な学習

(1)　基本的な考え

「発達段階に応じて，他との関わりのなかで，自ら考え，判断し，行動できる子ども」を育成するためには，自らやり遂げる必然性のある活動や場の設定，他と関わる必然性のある活動や場の設定が必要である。ここでいう「他」とは，人であり，物であり，自分をとりまくもの全てをさしている。これらと子どもたちが積極的に関わることにより，物事の本当の価値が見出され，人としてどう生きるかということ，本来の人間の姿が見えてくるのである。

そのためには，現在の教科・領域の枠に限定されない，実感や達成感のもてる体験，考えたり，判断したり，行動したりする基礎となる体験が必要である。その中で，子ども一人一人の興味・関心に基づいた追求活動が展開されていくのである。自らの課題を設定し，自らの解決方法で，自らのペースで，失敗を恐れず自らの結果を出し，自らの方法で表現する。これら一連の学習を通して一人一人の子どもが自信を持ち，自分らしさを追求していく力，すなわち個性の伸長が図られるのである。

子どもたち自らが考え，決定し，責任の持てる自己活動。これが，本校の総合的な学習である。以上のような考えから，本年度は「人間」「環境」「自分タイム」「コンピュータ活用」の４つのプロジェクトを編成し，年間計画の作成及びねらいの達成に向かうものとする。

また，内容の選択にあたっては，

・子どもが本気で活動できるものであるか。

・その体験が，人と人とのつながりを直接体験するものになっているか。

・その体験が，人が生きていく上での諸問題に直接関係しているか。

・その体験が，その子の価値観を変え，その後の生き方を考えさせるものになり得るか。

ということを観点にし子どもの実態を十分考慮していくものとする。

合わせて，従来からある学校行事や宿泊的行事を見直し，総合的な学習との関わりを明らかにしていくことを本年度の課題とし，来年度以降「学校行事の再編成」へと向かうものとする。

(2) 20年前の本校の「合科・総合学習」

東雲附小では，既に昭和50年～昭和59年にかけて「合科・総合学習」についての研究を進めてきている。そこでは，「ゆとりのあるしかも充実した学校生活」を出発点として，「学習効果を高める指導方法」としての「合科・総合学習」が創造されている。当時の研究を大まかにまとめてみることとする。

① 合科的な学習指導

指導のねらいをより効果的に達成していくためには，１時間の授業においても，単元全体の指導においても，子どもの意欲・関心が高まり，指導のねらいが十分達成され，学習の喜びを感じさせるような活動の設定が大切になってくる。

そこで，各教科のねらいや活動を吟味し，教科間や特別活動などとの結びつきも重視し，教科指導の面からより望ましい指導の類型を模索していった結果生まれたのが，次の３つの指導類型である。

ア 合科的な指導

教科（２教科以上）のねらいを同時に達成するための効率的な方法として生まれたものである。これは，１教科内で指導するよりも，２教科以上のねらいを同時に達成できる場を構成した方が効率的な場合に行われるものであり，授業全体が合科的に扱われる場合とある単元の一部が合科的に扱われる場合が考えられる。

イ 関連的な指導

１教科のねらいを達成するための効率的な方法として，他教科の内容をも利用した指導方法である。これは，ある教科のねらいを達成させる場合，他教科で得た知識，技能，考え方などを動員することによって効果を高めると考えられる場合に行われる。

ウ 発展的な指導

教科での学習が他領域の先行経験となる場合や，他領域の場に関連したものを各教科の指導に取り入れることによってねらい達成に効果を上げると考えられる場合の指導方法である。つまり，教科の学習で得られたものを発達させる活動や教科指導以外の活動の場を利用して，教科指導をより一層高めていくような指導のことを言う。

② 総合的な学習指導

自己教育力の育成という立場から，学習意欲や学習方法，自己を表現したり，友だち相互が関わって高まったり，深まったりしていくことを大切にしている。そのために，子どもの遊びやくらしを見直し，体験させたい活動として何があるかを探し出し，１つの単元として教育課程に位置づけている。この場合，ねらいとしては教科のねらいのみを指しているのではない。例として次のようなものが挙げられる。

・低学年の発達特性をふまえたもの　（しののめ夏祭り，早くこいこいお正月）

・全校的な活動の場を生かしたもの　（朝会，収穫祭）

・学校行事を生かしたもの　（歓迎遠足，運動会，海・山の学習）

総合的な学習を効果的なものとするために，「各教科間，道徳，特別活動などの関連を図ることが教科それぞれのねらいをより確かに達成させ，より豊かな教育効果を生み出すことができる。」という条件から，子どもの主体的な活動と体験的な活動をポイントとしている。

この研究の成果をふまえて研究を進めていくのは当然であるが，20年前は「学習効果を高める指導方法」をめざした「合科・総合学習」であって，あくまでも指導のねらいを達成するための研究であった。それに対して，今進めようとしている「総合的な学習」は，「人とのかかわり」「物（自然）とのかかわり」を通して，自分自身をみがくことを直接ねらいとしているのである。またその子自身の何が変わったかを見とるものであり，物の見方・考え方の広がりや深まりを見ていくものである。

(3) 現代社会からの社会的要請

研究を進める上で，現在言われている「総合的な学習」とはいったいどのようなものなのか，なぜ今必要なのかなどについても調べていく必要がある。

① 総合的な学習の必要性（中教審答申から）

ア 答申のキーワードである「生きる力」を育むために必要である。

社会の変化への主体的な対応力，つまり「生きる力」とは，あれこれの知識を覚えることではなく，よりよく生きる生活の知識と言える。生きて働く知恵を身につけるために今「総合的な学習」を求めているのである。

イ 現代社会からの社会的要請として必要である。

社会的要請としての今日的な諸課題を学校で取り扱うとき，どこでどのように取り上げるかが問題となる。それは，この諸課題が，１つの教科や領域だけでは対応できない広範な内容を含んでいるからである。例えば，環境問題を考えれば「人間」「自然」「生活」など広い分野にかかわる総合的な課題となっている。それらを学習する有効な枠組みや，方法の開発が求められているのである。

② 総合的な学習とは

総合的な学習の形態や内容，カリキュラムへの位置づけなど，「総合」の概念は極めて多様である。例えば，

- ２つ以上の教科を１つにすること
- 教科と特別活動との総合
- 教科の枠組みをなくしたコアカリキュラム
- いくつかの教科の内容を取り込んだ単元
- 既成の教科の枠にはない内容の単元
- 学校行事などの活動

など，１つの答えがあるのでなく，多くの答えが用意されているものである。「総合的な学習」とは「分化の教育」に対するものであり，分化の形態の変更をも含んでいるのである。

③ 総合的な学習と教科の学習

各教科の学習も総合的な学習も「知識」と「体験」によって構成されるものである。しかし，前者が教科の系統に対応して進められるのに対し，後者は現実の課題の解決として進められるものである。

総合的な学習においては，子どもが興味関心を持っていること，身のまわりで起こっている現実の問題をとらえ，その解決や達成をめざして，身近さ，臨場感，当事者意識，課題意識，解決への意欲などを配慮して内容を定め「生きる力」の育成につなげていかなければならない。

人間としての実践的な力，生きていくための知恵としての生きる力を子どもに身につけさせたいと考えたとき，「はいまわる」として排除された「経験」が，子どもの「知識」の理解，活用，進化，増大を進めていくうえでの基礎となることに大きな意味がある。

④ 総合的な学習と生活科

単純に考えて，２つの教科（社会と理科）が１つになるという意味において，生活科は総合的な学習と言える。生活科は総合的な学習の１つの試みであると言えよう。

また，生活科のねらいを見てみると，「具体的な活動や体験を重視する」「自分とのかかわりで社会や自然をとらえる」「生活上必要な習慣や技能を身につける」という点がポイントになっており，目標においても総合的な学習であると言える。

生活科は，その位置づけは１教科であっても，その性格と特色においては総合的な学習なのである。すなわち，低学年では，すでに総合的な学習が始まっているといってよい。

このように，本校のめざす「総合的な学習」は，今日的な教育課題から来る社会的要請にも十分答えるものである。また，本校ではねらいや内容面から，生活科を土台とした「総合的な学習」の創造をめざしており，その点においても考え方に共通点が見られる。

さらに，情報の氾濫する現代社会においてコンピュータは必要不可欠な存在になってきている。情報収集や情報発進のみならず，生活をより豊かにしていくためにも「コンピュータ活用」の領域を設定した。

(4) 授業時数について

・ゆとりの時間と火曜日の学級裁量の時間を活用し，週２時間×35週をあて，年間の総時数を60時間程度とする。
・総時数の60時間を均等割りし，４領域の時数をそれぞれ15時間程度とする。
・低学年においては，生活科の学習を基本とし，その充実を図る時間として位置づける。ただし「コンピュータ活用」については，年間15時間をあてる。
・高学年に向けて，「自分タイム」が充実するように時間を設定する。
・この年間の総時数は，試案として位置づけ，教科や特別活動の見直しなどと合わせて今後検討（増減）していく。

という基本的な考え方を受け，次のように設定する。

ただし，各学習の実施時期や時間の取り方（まとめ取り型，分散型など）については，各学年の裁量で決定することとする。

	人　　間	環　　境	自分タイム	コンピュータ活用
低学年				１５
中学年	１５	１５	１５	１５
高学年	１０	１０	２８	１２

(5) 学校行事及び宿泊的行事と総合的な学習との関連

各行事のねらいと総合的な学習の4領域のねらいとを洗い出して，整理したものが次の関連表であり，本年度は，この表を基に「総合的な学習」と関わってねらいが十分達成できる活動にしていくこととする。

なお表中の◎は，子どもたちが主体的に計画し活動する行事であり，総合的な学習の柱としてしっかりと位置づけられるものである。○は，総合的な学習との関連がある行事，△は，その行事をきっかけとして各領域のねらい達成にせまることができると考えられるもの，あるいは，子ども全員ではないが一部の子どもにとっては関連が考えられる行事である。

《学校行事》

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ねらい
入学式 △				○　小学校に入学した喜びを味わい，新しく始まる学校生活に期待をもつ。(新1年) ○　新1年生を迎え，共によりよい学校生活を創っていこうとする心構えをもつ。(2～6年) ○　自分の入学した頃を振り返り，自分の成長に気づき，上級生としての自覚をもつ。
卒業式 △				○　卒業生，在校生，教職員，保護者が卒業生の新しい出発を心から喜び合うとともに，これまでの学校生活を振り返り，今後の向上・発展への意欲を高める。 ○　小学校6年間の全課程を終了して卒業するという喜びを味わい，新たな進路への希望と意欲を高める。(卒業生) ○　これまでの小学校生活を振り返り，家庭・学校・社会などに対する感謝の気持ちをいだく。(卒業生) ○　卒業生とともに，これまでの歩みを振り返る活動を通して，卒業生への感謝の気持ちや，今後の自分の生活における向上・発展への意欲を高める。(在校生)
お迎え遠足 ○ (◎) 高学年のみ	○			○　縦割り集団で，新1年生を迎え，グループ内での活動を通して交流を深める。 ○　春の自然を感じ，親しむ。
東雲祭 ◎				○　協力・分担しながら全校で活動することにより，他の学年との交流を図る。 ○　学級単位で催し物を企画・運営することにより成就感，達成感を味わう。
東雲発表会 ○				○　日頃の学習活動の成果を総合的に表現し，鑑賞し合うことを通して，自分たちの成長を振り返り，さらに自己を伸ばそうとすることができる。

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
6年生を送る会 ◎				○　縦割りグループを中心とした集会活動を行うことにより，６年生に感謝の気持ちを表すことができる。
縦割り活動 ◎				○　１年生から６年生までの異学年集団による活動を通して，集団の一員としての自覚を深め，協力してよりよい生活を創っていこうとする。
児童会活動 ◎	△ 委員会			○　児童会活動を通して，好ましい人間関係を育て，集団への所属感を深める。(全般) ○　児童会活動を通して，自主性と社会性を養うとともに個性の伸長を図りながら，活動への積極的な意欲や態度を培う。(全般) ○　学校生活を楽しく豊かにするために諸問題を話し合い，解決の方法を見いだす。(代表委員会) ○　学校内の仕事を分担処理し，学校生活をより豊かにする。(委員会活動) ○　集会活動を通して，自治的・自発的能力を養う。(集会活動)
クラブ活動 ◎	△	◎	△	○　同好の児童が所属する集団の生活を楽しく豊かにしようとする意図のもとに，共通の興味・関心を追求する活動を自発的・自治的に行うことによって，自主性・社会性を養い，個性の伸長を図る。
運動会 ◎		運動会 △ 中高のみ		○　体育の学習を中心とした日常の学習成果を総合的に発展させる。 ○　競技を通して，学級・学年のわくをこえた社会性・協力性を養う。 ○　規律ある行動の美しさや力強さに目を向け，集団行動における望ましい態度を養う。 ○　地域や保護者との交流を深める。
早朝活動 △				○　各学年ごとの学級間交流の活性化を図る。 ○　学校行事に向けてのオリエンテーションや全体指導の場として位置づける。 ○　運動に親しむ態度を育成するとともに，一日の気持ちよい始まりとなるようにする。

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
臨海教育 ◎	△ 6年生のみ			○　海での水泳学習を通して自然に親しみ，それを体で感じることができる。(6年) ○　公共施設を利用しての集団活動を通して，規律を守り海での安全に留意する態度を養う。(6年) ○　目標に向かって友だちとともに，最後までがんばる活動を通して，高まり合うことのすばらしさを体験することができる。

続いて，学校行事と総合的な学習との関連を各学年ごとに示すものが次の表である。

低学年（1・2年生）

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
入学式 △				○　小学校に入学した喜びを味わい，新しく始まる学校生活に期待をもつ。(1年) ○　新1年生を迎え，共によりよい学校生活を創っていこうとする心構えをもつ。(2年) ○　自分の入学した頃を振り返り，自分の成長に気づき，上級生としての自覚をもつ。(2年)
卒業式 △				○　卒業生，在校生，教職員，保護者が卒業生の新しい出発を心から喜び合うとともに，これまでの学校生活を振り返り，今後の向上・発展への意欲を高める。 ○　卒業生とともに，これまでの歩みを振り返る活動を通して，卒業生への感謝の気持ちや，今後の自分の生活における向上・発展への意欲を高める。
お迎え遠足 ○	○			○　縦割りでの遊びを通して，学校生活への期待感をもつ。(1年) ○　お迎え遠足の話し合いをもとに，自分の考えを持ちながらリーダーを支え活動できる。(2年) ○　春の自然を感じ，親しむ。
東雲祭 ◎				○　広場めぐりをし，上学年との交流を通して，活動を楽しみ来年度への期待をもつ。(1年) ○　各学年に応じた企画・運営をすることにより成就感，達成感を味わう。(2年)

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
東雲発表会 ○				○　日頃の学習活動の成果を総合的に表現し，鑑賞し合うことを通して，自分たちの成長を振り返り，さらに自己を伸ばそうとすることができる。 ○　望ましい鑑賞態度について考え，実践することができるようにする。
6年生を送る会 ◎				○　縦割りグループを中心とした集会活動を行うことにより，6年生に感謝の気持ちを表すことができる。
縦割り活動 ◎				○　異学年集団の中で楽しみながら活動ができる。 ○　わからないことは上級生に聞くことができる。 ○　自分の思いを相手に伝えることができる。 ○　相手の意見を聞くことができる。
運動会 ◎				○　集団への所属意識をもつ。 （地域の活動に関心をもつ）
児童会活動 ◎				○　学校生活をより豊かにするために諸問題について話し合う。
早朝活動 △				○　各学年ごとの学級間交流の活性化を図る。 ○　学校行事に向けてのオリエンテーションや全体指導の場として位置づける。 ○　運動に親しむ態度を育成するとともに，一日の気持ちよい始まりとなるようにする。
臨海教育 ◎				○　目標に向かって友だちとともに，最後までがんばる活動を通して，高まり合うことのすばらしさを体験することができる。

中学年（3・4年生）

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
入学式 △				○　新1年生を迎え，共によりよい学校生活を創っていこうとする心構えをもつ。 ○　自分の入学した頃を振り返り，自分の成長に気づき，上級生としての自覚をもつ。
卒業式 △				○　卒業生，在校生，教職員，保護者が卒業生の新しい出発を心から喜び合うとともに，これまでの学校生活を振り返り，今後の向上・発展への意欲を高める。 ○　卒業生とともに，これまでの歩みを振り返る活動を通して，卒業生への感謝の気持ちや，今後の自分の生活における向上・発展への意欲を高める。
お迎え遠足 ○	○			○　お迎え遠足の話し合いをもとに，自分の考えを持ちながらリーダーを支え活動できる。 ○　春の自然を感じ，親しむ。
東雲祭 ◎				○　各学年に応じた企画・運営をすることにより成就感，達成感を味わう。
東雲発表会 ○				○　日頃の学習活動の成果を総合的に表現し，鑑賞し合うことを通して，自分たちの成長を振り返り，さらに自己を伸ばそうとすることができる。 ○　望ましい鑑賞態度について考え，実践することができるようにする。
6年生を送る会 ◎				○　縦割りグループを中心とした集会活動を行うことにより，6年生に感謝の気持ちを表すことができる。
縦割り活動 ◎				○　自分の考えを持ちながら，リーダーを支え活動することができる。 ○　責任をもって自分の役割を果たすことができる。 ○　話し合った決まりを守って活動することができる。

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
運動会 ◎		運動会 △		○　お互いのよさを認め自分らしさを発揮しようとする。 ○　地域で暮らす人々の思いや願いを知り，自ら関わろうとする。 ○　自分にあった運動に関心を持ち，新しい運動目標を持とうとする。
児童会活動 ◎				○　学校生活をより豊かにするために諸問題について話し合う。
クラブ活動（4年生） ◎	△	◎	△	○　同好の児童が所属する集団の生活を楽しく豊かにしようとする意図のもとに，共通の興味・関心を追求する活動を自発的・自治的に行うことによって，自主性・社会性を養い，個性の伸長を図る。（4年のみ）
早朝活動 △				○　各学年ごとの学級間交流の活性化を図る。 ○　学校行事に向けてのオリエンテーションや全体指導の場として位置づける。 ○　運動に親しむ態度を育成するとともに，一日の気持ちよい始まりとなるようにする。
臨海教育 ◎				○　目標に向かって友だちとともに，最後までがんばる活動を通して，高まり合うことのすばらしさを体験することができる。

高学年（5・6年生）

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
入学式 △				○　新1年生を迎え，共によりよい学校生活を創っていこうとする心構えをもつ。 ○　自分の入学した頃を振り返り，自分の成長に気づき，上級生としての自覚をもつ。

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
卒業式 △				○　卒業生，在校生，教職員，保護者が卒業生の新しい出発を心から喜び合うとともに，これまでの学校生活を振り返り，今後の向上・発展への意欲を高める。(5・6年) ○　これまでの小学校生活を振り返り，家庭・学校・社会などに対する感謝の気持ちをいだく。 ○　小学校6年間の全課程を終了して卒業するという喜びを味わい，新たな進路への希望と意欲を高める。(6年) ○　卒業生とともに，これまでの歩みを振り返る活動を通して，卒業生への感謝の気持ちや，今後の自分の生活における向上・発展への意欲を高める。(5年)
お迎え遠足 ◎	○			○　お迎え遠足の計画や実践を通して，1年間のリーダーとしての意欲と見通しをもつ。 ○　春の自然を感じ，親しむ。
東雲祭 ◎				○　各学年に応じた企画・運営をすることにより成就感，達成感を味わう。
東雲発表会 ○				○　日頃の学習活動の成果を総合的に表現し，鑑賞し合うことを通して，自分たちの成長を振り返り，さらに自己を伸ばそうとすることができる。
6年生を送る会 ◎				○　送る側のリーダーとして，責任を持って活動できる。(5年) ○　1年間の縦割り活動を振り返る。(6年)
縦割り活動 ◎				○　リーダーとして自覚を持って活動することができる。 ○　相手の立場にたって話し合うことができる。 ○　見通しを持って活動に取り組み，下級生を導くことができる。

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
児童会活動 ◎	委員会 △			○　学校内の仕事を分担処理し，学校生活をより豊かにする。 ○　学校生活をより豊かにするために，進んで諸問題について話し合い解決の方法を追求する。
クラブ活動 ◎	△	◎	△	○　同好の児童が所属する集団の生活を楽しく豊かにしようとする意図のもとに，共通の興味・関心を追求する活動を自発的・自治的に行うことによって，自主性・社会性を養い，個性の伸長を図る。
運動会 ◎		運動会 △		○　自分にあった運動に関心を持ち，新しい運動目標をもとうとする。 ○　リーダーとしての自覚を持ち，集団をまとめる。 ○　運動会の運営に積極的にかかわり，その中で自分をいかそうとする。 ○　いろいろな地域の活動について関心を広げ，進んで調べようとする。
早朝活動 △				○　各学年ごとの学級間交流の活性化を図る。 ○　学校行事に向けてのオリエンテーションや全体指導の場として位置づける。 ○　運動に親しむ態度を育成するとともに，一日の気持ちよい始まりとなるようにする。
臨海教育 ◎	△ 6年生のみ			○　海での水泳学習を通して自然に親しみ，それを体で感じることができる。(6年) ○　公共施設を利用しての集団活動を通して，規律を守り海での安全に留意する態度を養う。(6年) ○　目標に向かって友だちとともに，最後までがんばる活動を通して，高まり合うことのすばらしさを体験することができる。

《集団宿泊的行事》

（本年度）

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
4年 宿泊 ◎	◎	△	△	○　学校，家庭を離れ，同学年の児童と宿泊活動をすることにより，精神的・身辺的な自立を図る。 ○　集団行動を通じて，集団的一体感や各々の役割を果たすことの大切さに気づかせる。 ○　自然の中での活動を通して，人間と自然の融合的な感覚を養う。 ○　これまでの自分を見つめたり，新たな自分を発見する場とする。
海の学習 ○	○			○　美しい瀬戸内海の自然の中で，海事・水産に関する体験学習を行い，海についての関心を高めるとともに平素の学力を支える力となる生活経験の一層の充実に役立てる。 ○　研修施設での他団体との集団生活を通して，まわりに目を向けながら自分の手でなしとげ，社会性，協調性や自主・自立の精神を養う。 ○　単式，複式，養護の各学級の交流を図り，今後の学校生活において，ともに高まり合う集団を築いていく。
山の学習 ◎	○	○		○　自然の雄大さにふれ，豊かな情操を養う。 ○　共同生活を体験し，自分たちで生活を創りあげる力を養う。 ○　各教科の学習を実地に生かし，総合的な学習力を養う。
修学旅行 ◎	○			○　他附属小学校の6年生との交流を通して，その地域の文化にふれ，学校の枠を越えた豊かな人間関係を築く。 ○　雄大な自然や歴史的な遺産に触れ，豊かな情操を養う。 ○　修学旅行をもとにして，自分なりの課題を見つける。 ○　グループ活動を中心とする共同生活を通して自主的・自立的な態度を身につける。 ○　見学地・交通機関・宿泊施設等において，社会の一員として望ましい行動をする。

本年度は，以上のような計画に基づいて宿泊的行事を行うこととするが，来年度以降については研究テーマ「自立に向かう子どもたち」に，よりせまるための宿泊学習として次のように計画実施していくものとする。ただし，2年間は移行期間とし，平成12年度より完全実施とする。

《集団宿泊的行事》

（新　案）

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
3年山の学習 ◎	○			○　家庭や学校を離れ，大まかな見通しを持って宿泊活動をすることにより，身辺自立の定着と精神的な自立をめざす。 ○　集団の中で自分の役割に気づき，それを果たそうとする。 ○　自然と触れ合うことを通して，身のまわりの自然に目を向け関心をもつ。
4年海の学習 ◎	◎			○　家庭や学校を離れ，見通しを持って宿泊活動をすることにより，身辺自立の定着と精神的な自立をめざす。 ○　集団の一員として自分の役割を自覚し，責任をもって果たすことができる。 ○　自然と触れ合うことを通して，自然のよさを感じることができる。 ○　これまでの自分を見つめたり，新たな自分を発見する場とする。
5年山の学習 ◎	◎			○　集団での宿泊活動を通して，見通しをもって自分たちで計画し，やり遂げることができる。 ○　自然の中で生活（食，住）を創っていこうとする。
6年旅の学習 ◎	○	○	○	○　自分の住む地域と異なる環境（人，文化，自然）に触れ，それらに積極的にかかわることにより，自分の見方・考え方を広めたり深めたりすることができる。 ○　一般社会における生活経験を通して，社会の一員として好ましい態度を身につける。

《秋の遠足》

人間	環境	自分タイム	コンピュータ	ね　ら　い
低学年 ◎	◎			○　学年，学級内の横の一層のつながりを図る。 ○　校外の豊かな自然や文化に触れる。 ○　遠足の準備や片付けをできるだけ自分の力でやり遂げる。
中学年 ○	◎			○　秋の豊かな自然と触れ合う場とする。 ○　体力の向上を図る。 ○　文化的環境に親しむ。
		高学年 ○		○　自らのめあてをもって（宮島）を見つめなおす活動を通して，郷土の自然や文化への興味･関心を高めるとともに，文化財や公共施設を見学・利用する際のふさわしい態度を養う。 ○　グループ活動を通して，協力して活動することの大切さを味わうとともに，友情を一層深めることができるようにする。